学校プールが消える？猛暑影響、屋外指導困難に　Dfile2021.6（下）東京21.6.30

老朽化した学校のプールを改修、新設せずに、公営や民営の屋内プールでの水泳指導に切り替える自治体が、東京都葛飾区のような、一部の自治体で出てきている。屋外のプールは、熱中症に気を付けるほか、水着姿を外から見られないように配慮する必要もあり、学校の負担も大きい。逆に、学校プールを作り直すよりも、利用料を払って屋内プールを使用する方が、一校につき年間約260万円抑えられると試算したデータもある。

また、神奈川県海老名市では、2021年度までに19小中学校のプールを全廃した。市営の屋内プールに徒歩やバスで移動し、授業を行っている。

埼玉県加須市では、21年度から小学校のプールを統廃合し、廃止する小学校の児童は、近くの学校か民間のスイミングスクールで授業を受ける。中学校では22年度から水泳の授業を取りやめる。

課題は、成績評価と移動。学校とスクールでは評価の基準が違うため、判断基準の作成をより綿密に行う必要がある。

【東京都議会　議事録】

平成28年文教委員会　議事録本文 2016-11-22　里吉委員

私の住む世田谷区では、現在四つの区立中学校で、地域に開放する目的で温水プールが整備されています。夏は中学生が授業として使っていますけれども、それ以外、授業で中学生が使わない時期は、一般の区民が温水プールとして活用しているわけです。

　ですから、東京都でも、これから改築する学校など、新しく特別支援学校のプールを建設する際には、ぜひ温水プールにしていただいて、地域の障害者がもっとプールを楽しめるように、また、温水プールにすると、そこに通う子供たちにも大変いいと思うんですね。

　特別支援学校に通う児童生徒たちは、その多くが体温調節が難しい子もいまして、少し水温が低いとプールに入れない。毎年、お父さん、お母さんたちからの要望で、ことしも年に三回しかプールに入れなかった、何とかもっとプールに入れるようにしてほしい、こういう要望も聞いているわけです。

　ですから、特別支援学校のプールを温水化すれば、子供たちにもプールの機会を保障することができる、地域の障害者の方のスポーツの場としても活用できるというふうになると思いますので、教育庁と協議して、ぜひこれを進めていただくよう強く要望をいたします。

　最後に、このモデル事業の参加者からは、どのような感想が出されているのか、また、モデル事業ですから、取り組んでみて明らかになってきた今後の課題があれば伺いたいと思います。

【東京都での取り組み】

東京 台東・品川・足立・葛飾区 小中学校 水泳授業中止に

2020年5月16日　NHKニュース

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200516/k10012432431000.html>

休校が続く都内では、小中学校で健康診断が実施できず、安全の確保が難しいなどとして、東京23区のうち４つの教育委員会が今年度、水泳の授業の中止を決めたことがわかりました。東京23区のうち、台東区、品川区、足立区、それに葛飾区の４つの教育委員会が、すでに今年度、小中学校での水泳の授業の中止を決めたことがＮＨＫの取材でわかりました。また杉並区と荒川区も中止を検討しているということです。